

シチリア島

素材研究 (海外)



天才科学者・アルキメデスに捧げられたアルキメデー広場【©イタリア政府観光局】



アーモンドの花に囲まれたヘラ神殿



アルキメデー広場にある狩猟の女神ディアナに捧げられた噴水の像【©Fototeca ENIT】



世界遺産に見るシチリアの奥深い歴史 異民族支配による文化的多様性が魅力

ギリシャ劇場跡から臨むエトナ山の雄大な光景



現存する遺跡で最も保存状態が良いコンコルディア神殿



紀元前5世紀前半の神殿が7世紀のビザンチン時代にキリスト教教会に転用されたというドゥーモ【©Fototeca ENIT】

世界遺産が最多の50を数えるイタリアにあつて、異民族の支配による文化の多様性が魅力と言われるシチリア島には、そのうちの6つが集中。それぞれの時代の面影が色濃く残る島内各地では、短期の滞在でも多様な文化遺産にふれることができます。

シラクーサを守ったアルキメデスの発見

古代から地中海における戦略上の重要拠点だったシチリア島は、ギリシヤ、カルタゴ、ローマ帝国、ビザンチン、イスラム、ノルマン、フランス、スペインと、時代によって支配者が変わってきました。

2005年にギリシヤの植民都市シラクーサとともに世界遺産に登録されたシチリア東部のパンタリカには、石灰岩の渓谷が連なる切り立った崖壁にシチリア島先住民の墓が5000以上も残されています。紀元前13〜7世紀のものと言われるネクロポリ(古墳)で発見された鏡や食器などの日用品は、当時の生活を知る手がかりとなってきました。

そのシチリア島の先住民を滅ぼしたのが、アテネに次ぐ30万人の人口を誇った新興都市のシラクーサで、15000人収容の劇場やアポロン神殿などの遺跡が、往時の繁栄を偲ばせてくれます。天才科学者のアル

キメデスが生まれた街としても知られるシラクーサは、その科学的な発見を通じて誕生した新兵器で街が守られました。ローマ帝国に包囲されたシラクーサを救ったのは、艦隊を炎上させた「アルキメデスの鏡」という兵器だったと伝えられています。

栄華を偲ばせるギリシヤ時代の神殿群

1997年に世界遺産に登録されたシチリア島南西部のアグリジエントは、紀元前6世紀からギリシヤ植民地として築かれた古代地中海世界の重要都市のひとつです。農産物の輸出で賑わったというアグリジエントでは、郊外に築かれた壮大な神殿群が、その覇権を誇示していました。ほぼ完全な形をとどめているコンコルディア神殿をはじめ、ギリシヤ時代に建築された神殿の遺跡が直線に並ぶ「神殿の谷」は、往時の栄華を偲ばせてくれるものです。北アフリカのカルタゴとの戦いを繰り返したギリシヤが戦勝記念として建造したゼウス神殿は「神殿の谷」で最大規模を誇り、カルタゴに攻め入られた紀元前1世紀に焼き打ちにあつたというヘラ神殿には当時の炎の跡も残されました。

アグリジエントでは、毎年2月に「アーモンドの花祭り」と同時開催される国際フォークダンスフェスティバルには世界各国から多くの民族舞踊団が参加する。一方、シラクーサでは、毎年5月から6月にかけて紺碧の海を前に古代ギリシヤ劇場で古典的祭りが開催されています。